

H25年度夏休み明け、第3ステージ開始に当たって

H25.8.30 橋本

41日間の長い夏休みが終わりました。夏休みはみなさんにとってどんな休みだったでしょうか。夏休みに入る前の全校集会で「8月30日にみんな心身ともに元気で集りましょう。」とお話ししましたが、夏休み中大きな事故もなく過ごすことができ、本当に良かったと思います。また、この夏休み中には、たくさんのみなさんの頑張りを見るることができました。いくつか紹介します。

まず中体連の県大会、東海大会のことです。3年生の松浦可苗さんが、県大会で100m、200mの背泳ぎで第2位という素晴らしい成績を残し、東海大会に出場しました。東海4県の選手が集まる東海大会に出場することだけでもすごいことですが、そこで第2位という素晴らしい成績でした。本当に頑張りました。

次に、1、2年生は、大変な猛暑の中、部活動を新チームで頑張っていました。少ない人数、経験者が少ないと工夫した練習をしていた部、もうすでに練習試合を行い新人戦に向けて着実に準備を進めている部、高温注意報が出そうな中でも新記録を出そうと頑張っていた部、映像を見ての学習など工夫して練習していた部がありました。これから始まる新人戦での頑張りがとても楽しみです。

また、耐震補強工事のための引っ越しのことです。みなさんやPTAの方にも協力してもらって、荷物の移動を行いました。7月20日の引っ越しの際には、先生方の指導の下、みなさんが大変、協力的に、また、自主的に作業に取り組んでくれて大変スムーズに作業ができました。暑い中本当にご苦労様でした。また、次の21日には保護者の方々が協力してくれて引っ越しの仕上げを行いましたが、これも大変スムーズで予定していた時間よりも大分早く終えることができました。

さて、その引っ越しの時の小さな発見をみなさんにお話ししたいと思います。

引っ越しの際に校長室に飾ってあった額も移動しました。これです。普段この額は校長室の入り口の壁に掲げてあったのですが、額に書かれている「玄會」という文字にどんな意味があるのだろうとよく考えました。辞書で調べたり、インターネットで調べたりしました。

ある時、国語の櫻木先生に「この『玄會』とはどんな意味なのでしょう」とたずねたことがあります。先生はすぐに調べて下さって、「『玄』という字には、悟りというような意味があるようです。『會』は会うという字の旧字なので、『大きな悟りに至る』というような意味ではないでしょうか。」と教えて下さいました。なるほどそういう意味かと合点がいきました。

しばらく立って先日の引っ越しの日です。額を下ろして、運ぼうとしてふと額の裏を見ると何か文字が書いてありました。「癸亥冬日 『深遠なるさとり』 寄贈 影森 小谷 摂岳 掛川市老連書道部師範」と「癸亥(みずのとい)」が西暦を表しているとすると1983年、「冬日」は冬の日、1983年の冬の日に書かれたものではないかと考えられます。櫻木先生が教えて下さったとおりの意味でした。どんな意味なのかと思っていた疑問もすっきりしました。引っ越しがなかったらこの裏を見ることもなかったかもしれません。そして、30年前にこの文字を書かれた「小谷さん」にお会いできたような不思議な気持ちになりました。そして、書かれていた文字「深遠なるさとり」のように深い悟りができるように自分自身も日々精進して、心がけていかないといけないと感じたひとときでした。

今日から第3ステージです。「感動ある栄中祭を創り、集団を高めるステージ」がスローガンで、「栄中祭」があります。いよいよ学級のまとまりを發揮する時となります。「合唱」という文字を後ろから見てみると「日に日に口が合う」と書いてあります。まさに、仲間の団結が声という形になる瞬間が合唱ですね。みんなの心が一つになって、歌声がぴったりとがあったすばらしい合唱を期待しています。

最後に、今日は移動したものを持ち、元に戻すという大きな作業がありますが、ぜひ、協力して作業に取り組んで下さい。お願ひします。

第3ステージもがんばりましょう。 以上でお話を終わります。